



高速シュミットカメラによる星雲・星団の造形 THE DEEP SKY

沼澤茂美 著

誠文堂新光社, 183 頁, 定価 4200 円

解説書

お薦め度

☆☆☆☆☆

“THE DEEP SKY”—これは星空の微かな光を追求めた、星雲・星団の写真集である。著者沼澤氏が愛用のシュミットカメラを用いて7年越しで撮影した四季の夜空を彩る星雲や星団、銀河の姿が季節ごとに並べられ、それに加えて南天と彗星の計6部から構成されている。春、宝石をちりばめたようなおとめ座銀河団。夏、様々な星雲が天の川の中に浮かび上がる。暗黒星雲のシルエット。肉眼では見ることのできない美しい世界が眼前に迫る。こんなにも星がたくさんあるのかと改めて感じさせられる。夏の空に比べるとやや寂しい感がある秋の夜空も、おなじみのアンドロメダ銀河をはじめ、美しさでは引けをとらない。冬、オリオン大星雲、馬頭星雲、バラ星雲などが頁をめくるとにそのすさまじいまでにエネルギーに満ちた姿を現す。そして、ディープスカイの世界は私たちがふだん目にするることのできない南半球の空へと続く。巨大な天体ガム星雲、大小マゼラン雲など見る者をあきさせない。最後に4つの彗星の写真をもってこの作品は終わる。巻末には撮影の手引きが加えられている。著者と口径20cm F1.5のシュミットカメラとの出会い、その愛機を携えて、雲の切れ間を縫って走り回って撮影した様子、そして、撮影に用いたフィルムや暗室での作業の様子が写真とともに紹介されている。実際に天体写真を撮影する読者にはいろいろと参考になるのではないだろうか。そうでない読者にも、著者の天体写真撮影にける情熱、機材に対する愛着がひしひしと伝わってくる。

それぞれの写真には星雲・星団、銀河等の天体の位置（赤経・赤緯）、天体の種別、見かけの大き

さ、明るさが示されるとともに、大半の写真には角度のスケールの入ったチャートがついており、望遠鏡や双眼鏡を使って実際に星空を見る際には便利なガイドにもなろう。また、それぞれの天体について興味深い解説がついている。電波や赤外線などの観測から明らかになった事実も触れられており、視覚による詩情のみにはあきたらぬ読者には、天文学への関心をもかきたててくれることであろう。この解説には、英訳も併記されている。

シュミットカメラの特徴は視野の広さと像の明るさである。この作品はその長所を生かして、微かな天体の光を追求め、星空の中に浮かぶ星雲や星団、銀河を捉えている。各頁に広がる星空は、頭上に広がる絵巻物のような宇宙をより大きな存在として、しかも立体的に感じさせてくれるような気がする。私たちの頭上にはかくも美しく神秘的でドラマティックな世界が広がっているのか。しかし、著者がまえがきや巻末で嘆いているように、光害によってその魅力ある世界が私たちから遠ざかりつつあるというのは、天体写真を撮影する者に限らず大変残念なことである。

非日常的な美しい世界を観て楽しむもよし、深遠な宇宙の謎に興味を抱くもよし。頁のめくり方は人それぞれであろうが、写真を通して、著者が星空のもとで味わったであろう感動を共感できるに違いない。

「今夜は表へ出て星空でも眺めてみようかな」そんな気分にさせてくれる一冊である。

徂徠和夫（東大理）